

川俣精機(株) リスクコミュニケーション の取り組み

阿武隈の美しい自然を守るため、
地域社会との協調・連帯を図って活動します。

相互理解の促進のため、積極的な
情報開示とコミュニケーションを行います。

当社環境保全基本方針より

報告の順序

- 1.会社紹介
- 2.環境保全基本方針と活動
- 3.製品紹介 (製品と化学物質の係わり)
- 4.化学物質の使用状況
- 5.リスクコミュニケーションの取り組み
- 6.今後の取組みについて

**川俣精機(株)の所在地
伊達郡川俣町**

人口 16,700人
規模 56億円
(H18年度一般会計予算)
面積 128 km²

**会社紹介
川俣精機(株)**

3A川俣
(Aggressive Action & Advanc
e)

本社工場

- ・創立 : 1943 (昭和 18) 年
- ・資本金 : 2.75 億円
- ・従業員 : 200 人 (07 年 4 月)
- ・敷地 : 31,560 m²
- ・建物 : 11,107 m²
- ・工場 : 本社工場 : 事務、素材加工部門
富田工場 : 組立部門
- ・ISO登録 : ISO 14001 審査登録 (1999 年)

川俣精機㈱の基本方針 (企業の社会的責任)

CSR (Corporate Social Responsibility)



川俣精機㈱環境保全基本方針 (骨子)

環境保全を経営の重要課題の一つとして取り組みます。

環境負荷の低減、汚染の防止を図ります。

環境保全に関する法令を順守します。

従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。

環境調和型製品を開発します。

地球温暖化防止、資源の有効活用、化学物質管理等
すべてのプロセスで環境負荷の低減に取り組みます。

阿武隈の美しい自然を守るため、地域社会との協調・連
連帯を図って活動します。

相互理解の促進のため、積極的な情報開示とコミュニ
ケーションを行います。

3. 製品紹介

主力製品紹介

製品名： **直流電動機**

外観： **製鐵／製紙用**

特長
**今後も直流機を製作・修理継続する
 日本唯一の製造メーカー
 川保精機**

ギア付、ブレーキ付、縮
 ニーズにお応え致し
 他社製品の修理 巻



用途例 業種別

鉄鋼 製紙 化学 荷役機械
 セメント工業 水道 工作機械

定 格：

製作範囲 5w～1200kW



4. 化学物質の使用状況 (06年度)

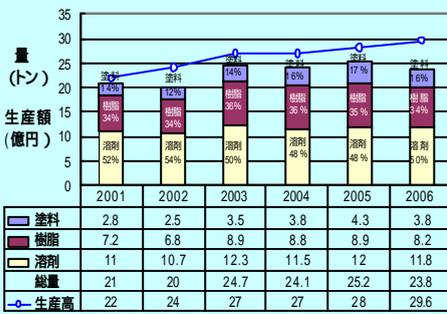
【特定化学物質】	【取扱物質】
第一種指定化学物質 354 物質	9 物質
第二種指定化学物質 81 物質	1 物質
福島県条例指定物質 100 物質	1 物質
計 535 物質	計11物質

【報告状況】
 * PRTRの排出量・移動量は2001年度実績から毎年報告
 * 福島県条例指定物質(福島県化学物質適正管理指針)の使用量は県の指定により報告

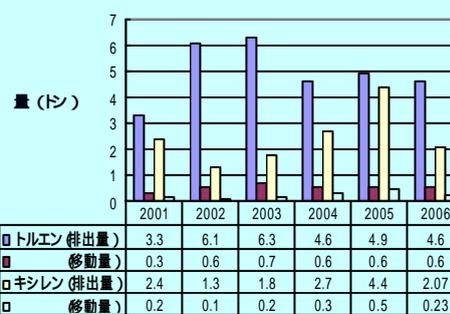
化学物質の総使用量
 06年度の総使用量は24t

PRTR物質排出量・移動量推移
 トルエン 4.6t・キシレン 2.1t

製造量と化学物質使用量推移



PRTR物質排出量・移動量推移



製品・使用・設備面から改善を行
ない化学物質使用量を削減しリ
スクの低減を図っています。

製品テスト結果に基づく改善の推進成果
大形 DDモータの EC設計事例

従来品	改善品
適用機種 高級機 XDDM-0 形	適用機種 家用機 XDDM-02形
1. サイズ : D1400 × 68 L	1. サイズ : D1090 × 60 L
2. 体積 : 0.105 m ³	2. 体積 : 0.056 m ³
3. 質量 : 61 kg	3. 質量 : 63 kg
4. 梱包 : 木箱 1610 × 300H (内蓋7ヶ付)	4. 梱包 : 木箱 1300 × 290H (内蓋7ヶ付なし)
5. 接続 : #3ハンダ付け	5. 接続 : 端子付け(ハンダレス化)

効果

1. サイズ小形化による体積低減率... 4.7%削減
2. 梱包体積低減... 3.7%削減
3. ハンダ使用量削減... 2.0kg/年間

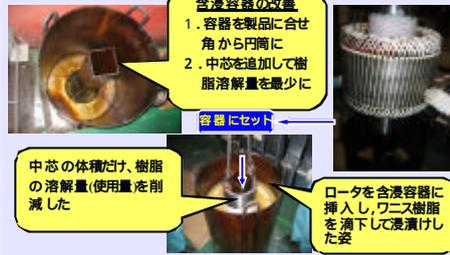


ハンダ付けから銀ロー付けに改善する等徹底した鉛ハンダの削減にも取り組んでいます。

鉛ハンダは '01年度1.15 から '05年度0.1 まで削減

化学物質使用職場の改善

ワニス の使用量を最少にした事例 (使用量 35% 削減)



- 含浸容器の改善
1. 容器を製品に合せ角から円筒に
 2. 中芯を追加して樹脂溶解量を最少に

容器にセット

中芯の体積だけ、樹脂の溶解量(使用量)を削減した

ロータを含浸容器に挿入し、ワニス樹脂を滴下して浸漬けた

設備導入による改善

ハンダ付けを熱圧着に改善し(ハンダ+化学物質レス)



ハンダ付(従来)
銅線剥離? フラックス塗布? ハンダ付?
洗浄
(化学物質+鉛ハンダ使用)
熱圧着(改善)
鉛ハンダ+化学物質レス

熱圧着部

導入した熱圧着機

改善後 鉛ハンダ115kg/年の削減
800台/月 × 12ヶ月 = 115 kg
フラックス(浸透剤)+シンナー(洗浄剤)レス



危険物倉庫

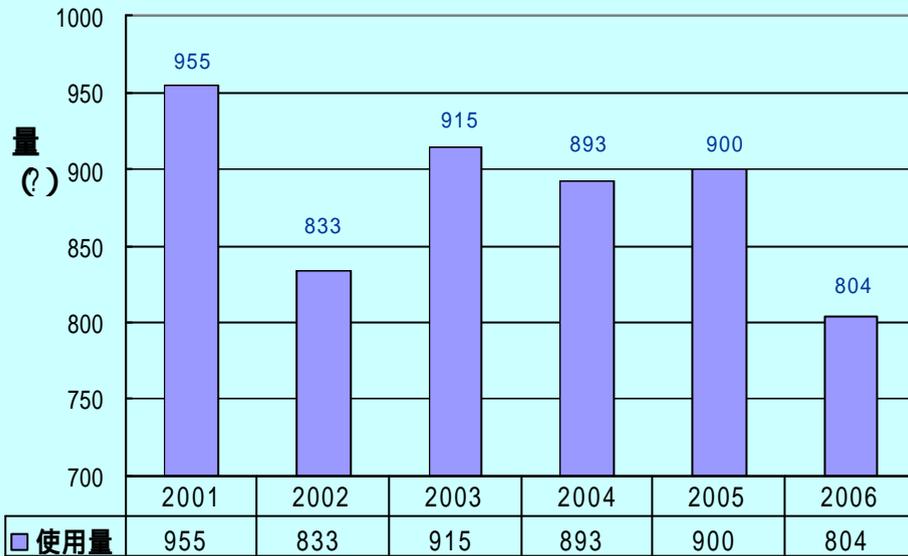


貯油施設



環境報告書は2002年11月
初刊発行

生産百万円に対する化学物質使用量



リスクコミュニケーションの取り組みの経過

取組み年月	項目	内容	課題	課題への取組み
2004年 6月 2004年 9月 2004年 11月	PRTR活用セミナー出席 県推進セミナー出席 県意見交換会出席			
2004年 11月	リスクコミュニケーションの必要性を自覚 取組みの準備開始	2005年 4月開催に向け準備開始		
2005年 4月	第一段階の取組み	・春のレクリエーション ・工場見学会開催	参加者が少なく平日頃の交流の大切さを自覚	地域交流・地域への発信・内部体制の整備
2006年 4月	第二段階の取組み (第三段階)	・地域説明会開催 ・春のレクリエーション	活動が浸透し地域との交流が深まる	次回に向け準備 地域説明会の充実 関係機関との連携
2007年 4月	第三段階の取組み			

リスクコミュニケーション セミナーへの参加

- * 「PRTRデータ活用セミナー」04年 6月 経済産業省
- * 化学物質リスクコミュニケーション推進セミナー
04年 9月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーションに関する意見交換会
04年11月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーション推進セミナー
05年 7月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーションに関する意見交換会
05年11月 福島県
06年10月 福島県

当社は '04年に県のリスクコミュニケーション 推進セミナーで取り組みの必要性を自覚

- * 社長に推進セミナー懇談会の報告結果
重要な取り組みであり会社として意志決定する。

企業には種々のリスクがあるが、その一つとして
リスクコミュニケーションは大切な活動である。

この機会に地域とのコミュニケーション（信頼関係）
を促進して行きたい。

地域とのコミュニケーションの取り組み 過去の経過と現在の状況

* 過去の経過

- ・30年に渡り盆踊り大会を開催し町の一大イベントとして地域の皆さんと交流を図ってきた。
- ・平成5年「からりこフェスタ」と銘打って町の夏祭りが開催され、要請により盆踊りは夏祭りに合併した。

* そのため

- ・当社稲荷神社の例大祭に合せ春のリクリエ ション (花見・ミニ運動会)を開催している。
- ・当イベントには地域の皆さんは招待していなかった。

リスクコミュニケーションの取り組み どこからどう取り組みを行うか。

* 当社は盆踊り大会以降長期のブランクがあり 県の推進セミナーで **「出来ることから始めて欲しい」**との指導 (提案)を基に段階的に取り組むことにした。

- ・第一段階の例 工場見学、夏祭り、自治会との定期会合
- ・第二段階の例 環境報告書を基にした説明、意見交換
- ・第三段階の例 : PRTRデ - タに基づくリスクに関する
意見交換等

リスクコミュニケーションの取り組みの経過

取組み年月	項目	内容	課題	課題への取組み
2004年 6月 2004年 9月 2004年 11月	PRTR活用 セミナ出席 県推進セミナー 出席 県意見交換会出席			
2004年 11月	リスクコミュニケーションの必要性を自覚 取組みの準備開始	2005年 4月開催に向け準備開始		
2005年 4月	第一段階の取組み	・春のレクリエーション ・工場見学会開催	参加者が少なく 平日の交流の大切さを自覚	地域交流・地域への発信・内部体制の整備
2006年 4月	第二段階の取組み (第三段階)	・地域説明会開催 ・春のレクリエーション	活動が浸透し 地域との交流が深まる	次回に向け準備 地域説明会の充実 関係機関との連携
2007年 4月	第三段階の取組み 予定			

リスクコミュニケーションの取り組み開始

'05年に第一段階の取組みを次の3つの視点から行なった。

1. 地域とのコミュニケーション

春のレクリエーションに地域住民の方々を招待し工場見学会を実施



2. 環境活動の公表

環境報告書の公表の拡大(県、町、消防署、学校～)



3. 地域との交流・貢献

行政セミナー 地域・学校等の行事への参加、地域行事への援助、グラウンドの開放、地域に隣接する施設の清掃、工場見学、中・高校の体験学習の受入れ等



リスクコミュニケーション

'05年開催した第一段階の結果と課題

1. 第一段階の取り組み結果 “地域住民の皆さんの参加が少なかった。”

招待した地域の会社OB・取引先の皆様には全員参加いただきましたが、地域住民の皆様は数名の参加に留まりました。交流が途絶えていたブランクの大きさ、平日頃の交流の大切さを痛感しました。

2. 第一段階の課題への取り組み。 “地域との交流と全社的な活動へ”

主管する総務・環境担当は、地域の皆さんや、自治会長さんとの交流を図り、誘い合って「参加いただき体制作りを行なう」部課長はリスクコミュニケーションを理解し、全社及び地域における活動を行う。リスクコミュニケーションの全社教育を行い全社活動へ。

3. 今後の進め方 '06年開催へ “'05年度の課題を改善し継続する”

毎年春のレクリエーションをリスクコミュニケーションの定期開催日とする。今回実施の課題を改善し継続する。第二・第三段階へ。環境活動の紹介や意見交換を行い環境・化学物質に対する理解を深め合う。

リスクコミュニケーションの研修会・教育風景



環境教育資料

リスクコミュニケーションの必要性

環境リスクをどのように管理すべきかなどについては、市民や事業者、行政などの様々な関係者が、化学物質のリスクに関する情報を共有しつつ、お互いの立場を尊重して相互理解を深めるためのコミュニケーションの場を設定することが重要となります。

環境教育資料

PRTR制度の目的

化学物質の数が膨大で、化学物質による環境影響の科学的解明が十分でないことから、**事業者による自主的な化学物質の管理活動を改善・強化し環境の保全を図ることを目的に、PRTR制度が導入された。**



'06年度の活動

(地域への発信)

環境円卓会議・県事例発表会、意見交換会で化学物質管理状況の発信・環境報告書で活動公表 地域貢献の積極展開で地域との交流が進む。

川俣こども科学館」でモーター製作体験学習 (好評で継続)・川俣小学校と河川清掃を通じ交流。川俣町聚溪の要請で当社社長が「企業と環境」と題し講演を行なう等公表の反響を実感。

環境省主催リスコミュニケーション
円卓会議で発表



川俣こども科学館



モタはどうして回るのかな



ではモーターで作ってみよう



子供地球サミット



川俣小学校5年生と共に



地域主催の広瀬川源流探訪へ参加



町の飽満清掃への参加風景



地域隣接地域の整備状況

'06年度の活動

(内部の整備)

“地域説明会の充実に向け計画的に社内の準備にも取り組む。
'05～'06に防災・耐震対策の再構築・周辺の環境整備を行
ない地域の皆さんに安心感を持って頂ける活動も重ねる。

防災体制の再構築 規定・体制 全社訓練



防災・耐震面から老朽建屋の更新 再配置



地域隣接地の整備 遊休地の公園化



リスクコミュニケーションの取り組みの経過

取組み年月	項目	内容	課題	課題への取組み
2004年 6月 2004年 9月 2004年 11月	PRTR活用 セミナ出席 県推進セミナー 出席 県意見交換会出席			
2004年 11月	リスクコミュニケーションの必要性を自覚 取組みの準備開始	2005年 4月開催に向け準備開始		
2005年 4月	第一段階の取組み	・春のレクリエーション ・工場見学会開催	参加者が少なく常日頃の交流の大切さを自覚	地域交流・地域への発信・内部体制の整備
2006年 4月	第二段階の取組み (第三段階)	・地域説明会開催 ・春のレクリエーション	活動が浸透し地域との交流が深まる	次回に向け準備 地域説明会の充実 関係機関との連携
2007年 4月	第三段階の取組み 予定			

リスクコミュニケーション '06年に開催した第二段階の結果

- '06年 4月地域説明会を開催し工場に隣接する地域住民に案内し7名の方々の参加を頂き説明した。
- 工場見学・環境施設の案内・化学物質の説明
化学物質使用職場を案内した。
- 工場案内後の懇談では
- ・近所に住んでいてどんな物を作っているか解らなかったが参加して良かった。
 - ・環境や地域に気配りをしていることが解った。
 - ・音や臭いもないし今のところ問題は感じない。
 - ・地域に隣接する側溝清掃は続けて欲しい等意見を交換した。
 - ・今度は隣の人にも「さそって来っかない。」との言葉を頂き、また一歩進んだことを実感した。懇談後花見に参加頂き交流した。



化学物質管理板で説明している姿



春のレクリエーションに参加風景
(当日は雨で工場内での開催)

リスクコミュニケーションの取り組みの経過

取組み年月	項目	内容	課題	課題への取組み
2004年 6月 2004年 9月 2004年 11月	PRTR活用 セミナ出席 県推進セミナー 出席 県意見交換会出席			
2004年 11月	リスクコミュニケーションの必要性を自覚 取組みの準備開始	2005年 4月開催に向け準備開始		
2005年 4月	第一段階の取組み	・春のレクリエーション ・工場見学会開催	参加者が少なく常日頃の交流の大切さを自覚	地域交流・地域への発信・内部体制の整備
2006年 4月	第二段階の取組み (第三段階)	・地域説明会開催 ・春のレクリエーション	活動が浸透し地域との交流が深まる	次回に向け準備 地域説明会の充実 関係機関との連携
2007年 4月	第三段階の取組み	・意見交換会 ・春のレクリエーション	行政関係者を招待	参加範囲の拡大

リスクコミュニケーション

'07年に開催した第三段階の報告-

- ・07年 4月地域説明会を開催し行政区長や隣接する住民のほか、県・町・地元消防団にも参画していただきました。
- ・会社からの情報提供として環境・CSR報告書を元に
 - 1)地球環境問題の基本的な認識
 - 2)私たちの生活と化学物質
 - 3)PRTR制度とは
 - 4)地域説明会の背景
 - 5)化学物質使用状況
 等を説明しました。



リスクコミュニケーション

'07年に開催した第三段階の報告-



第三段階までステップを踏んできて 今後の取り組み

地域説明会を継続し充実を図ります。

- 地域の対象者を拡大します。工場隣接の地域から輪を広げます。
- 更に化学物質のリスクについて具体的に説明を行います。

行政、関係機関、地域との連携強化を図ります。

- 行政・関係機関に参加を頂きます。
- 環境・防災上のリスクを想定し連携強化を図ります。

**第三段階までステップを踏んできて
今後の取り組み**

良き企業市民を育成します。

中小企業の仲間と交流を図ります。

化 県の懇談会や意見交換会を通し企業間の交流を行ない
学物質の削減やリスクコミュニケーションの充実を図って
まいります。

RoHS指令への対応を図ります。

- ・六価クロムメッキから三価クロムメッキへの切り替え
- ・鉛フリーハンダへの代替化

**地域社会に信頼される企業に努力してまいります。
行政・地域と共有し化学物質の管理に努めてまいり
ます。**

ご清聴ありがとうございました

富田工場

川俣精機株式会社

Tel :
024 565 3111